



Via Latina 22

2019年11月 284号

総本部よりのお知らせーマリア会

アメリカ管区での終生誓願式



左より：Jean Dossous士，Juan Pablo Espinoza Chávez士，
誓願を受け入れるアメリカ管区管区長 Oscar Vasquez師

10月5日（土）、アメリカ管区のJean Dossous士とJuan Pablo Espinoza Chávez士がマリア会の終生誓願を宣立しました。誓願式はミズーリ州、セントルイスのシャミナード予備中学校の無原罪の御宿り聖堂でのミサ聖祭の間に執り行われました。アメリカ管区Oscar Vasquez管区長がミサ聖祭を司式し、彼らの誓願を受け入れました。その後、祝賀会がシャミナード予備中学校の中庭にて開かれ、そこにマリア会員、親族のメンバーそして友人たちがお祝いのため集まりました。

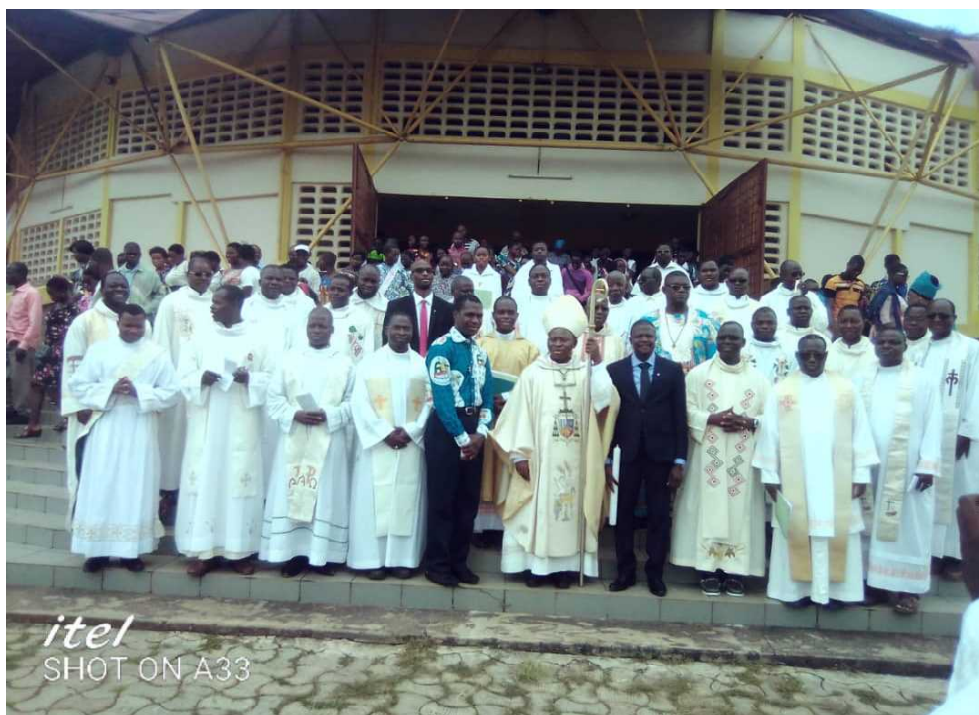
Jean Dossous士は1987年12月1日、ハイチのエネリーで生まれました。2006年にゴナイブの高校を卒業後、ポルトープランスに移り、そこで初めてマリア会員と出会いました。Jean士は2008年にハイチで前修練期に入り、そしてそこで2011年カナダ地区のメンバーとして初誓願を宣立しました。2013

年に彼はアメリカに移住してアメリカ管区のメンバーになりました。

Juan Pablo Espinoza Chávez士は1979年4月28日にメキシコ、グアナフアトのレオンで生まれました。マリア会に加わる前は、中学校と高等学校の教師でした。そしてメキシコのフランシスコ会の大学で哲学の学士号を取得しました。彼は2011年メキシコ、ケレタロで前修練期に入り、そして翌年チリ、サンティアゴで修練期に入りました。Juan Pablo士は2013年11月30日初誓願を宣立し、メキシコ、プエブラのサンタ・マリア・デ・ロサンゼレス・マリアニスト共同体に加わり、そこで彼は信徒マリアニスト共同体と幾つかの修道会と一緒に活動を行いました。

マリア会の最も新しい終生誓願者の皆さん、おめでとう！

トーゴでの終生誓願式と地区のダイヤモンド記念祭の閉幕



Longa司教の右側に立っているJacob Palou士

2018年11月10日から、トーゴのマリアニスト家族はトーゴにおけるマリア会員の存在60周年を記念するため色々な式典行事を行ってきました。2019年10月12日、柱の聖母の祝日に、ダイヤモンド記念祭の閉幕式がカラの司教座聖堂にて行われました。ミサ聖祭はこの地のJacques Longa司教によって司式され、トーゴ地区長Ignace Pagnan師をはじめ教区司祭、修道司祭も加わりました。参加者にはトーゴとスイスのマリア会員、コートジボワールのマリアニスト家族、多くの信者たち、そしてマリアニストの多くの友人たちが含まれていました。司教は説教の中で、マリアニストの霊性とカリスマの特徴を思い起こさせました。彼はトーゴ社会のあらゆるレベルの人々の教育に尽されたマリア会の会員たちの素晴らしい働きに心を込めた感謝の意を示されました。

この式典でソトゥブアのマリアニスト共同体のJacob Palou士が終生誓願を宣立しました。彼の父親は大変有能な要理教師でした。Jacob士は2年間トーゴからの宣教師としてチュニスで働き、チュニスの人々から大変感謝されました。

感謝の式典は、翌日もベナンのナティティンゲーでの日曜ミサ、およびアタコラの聖母巡礼地での世界マリアニストの祈りの日の式典で続けられました。ミサ聖祭はその地の司教、Antoine Sabi Bio司教が司式されました。

ブラザーJacobおめでとう！

総長評議員会のインド従属地区訪問



9月23日から10月20日にかけて、総長評議員会のメンバー4名はインド地区におけるマリアニストの生活と福音宣教に関する視察訪問を行いました。この従属地区はアメリカ管区に付属しており、80名のメンバーから構成されています。

この訪問はバンガロールの従属地区本部での総長評議員会と従属地区評議員会の会議で始まり、まず従属地区の現状報告がなされました。それから、総長評議員会メンバーは2名一組になって、それぞれマリア会の全ての共同体と事業体を訪問しました。さらに、修道者一人ひとりと、また修練者、前修練者および志願者とグループで会いました。彼らはすべての共同体で兄弟的で心のこもった歓迎を受けました。このことに感謝します。

インド従属地区は、南部のバンガロール地域と北部のビハールとジャールカンド州に集中しており、地理的に広大な地域に広がっています。多様な言語と文化からくる複雑さ、また同時にマイノリティーであるカトリック教徒（キリスト者）の置かれた状況は、多くの課題を提示しています。これらの課題に加えて、貧しい人たちと社会から忘れ去られた人たちを優先する使徒活動で働くことを選択していることに固有のチャレンジがあります。近年、この従属地区は、マリアニストカリスマの本性と伝統に合致する事業に従事するのに大変良く、ふさわしい手段として、正規の教育にその存在の度合いを強めるという明確な意思表示をしてきました。教育事業の幾つかは成長しています。また、これらの事業は真にマリアニスト的な背景で貧者への社会的支援を提供する機会を与えています。

この訪問の間に2つのFMI共同体から歓迎されたのに加えて、総長評議員会はNirmal Deepマリア会修練院でランチのマリアニスト家族と共に世界マリアニスト祈りの日を過ごす嬉しい機会を得ました。インドにあるマリアニスト家族の3つの枝全部の代表者がこの祈りの日の参加者150名の中に含まれていました。Michael McAward士が巡礼の本質について説明した後、全員で日曜のミサに与り、そのミサの間に、30名の新しい信徒マリアニスト共同体のメンバーがマリアへの奉獻を行いました。その後、お祝いの食事があり、この地域のダンスが披露されました。一緒にロザリオを唱え、マリアを賛美し、私たちの必要のためにマリアの取り次ぎを求めて、この日は終了しました。

最後に、バンガロールに戻ってから、総長評議員会はマリア会の側から、これからのマリアニスト修道生活と宣教を強化するために、インド従属地区評議員会とアメリカ管区評議員会に報告書を提出しました。



後列左より：教育局長Maximin Magnan士と総長André-Joseph Fétis師

マリアニスト家族世界評議会開催



通常、毎年この時期に、マリアニスト家族の4つの枝の責任者が数日間の会議のため、Via Latina 22に集まります。これがマリアニスト家族世界評議会の会議です。マリア会総本部の共同体は10月20日-30日の間、約20名の参加者を喜んでもてなしました。世界評議会の会議は10月25日、26日そして27日に開催されましたが、信徒マリアニスト共同体の指導者たちは世界評議会の前後数日間、自分たちの会議を行い、またアリアンス・マリアルの評議員会は世界評議会の後に集まりを持ちました。

これらの会議は自らをマリアニストと称する私たち全員にとって共通の件について前向きで協力的な意見や関心事の交換の場となりました。間もなく、皆さんにこれらの会議の更に詳しい情報が提供されると思います。カリスマ的家族として、私たちは受け取っている召命の多様性によって、また私たちが分か合っている共通カリスマによって恵みを頂いている事を意識しながら、これらの会議は相互支援と尊重の雰囲気の中で行われました。



注意喚起：マリア会が教育に携って200年

11月の始め、私たちは200年前にマリア会が責任を持って教育事業に参加し始めたことを思い起こします。この式典は、総長評議員会によって提案されたように2019年11月3日に、あるいは各地の共同体や事業所の都合の良い早めの日程で行われます。幾つかの象徴的な行為を通して、「すべての行政単位は、私たちの共通の宣教的アイデンティティを再確認するこのマリア会全体のプロセスに参加するよう要請されています。」注意喚起として、2019年9月の『SM 3部門#151』（日本語版は“教育に携わって200年”になっています）の終わりに提案された祈りを唱えることは、これらの象徴的な行為の一つです。

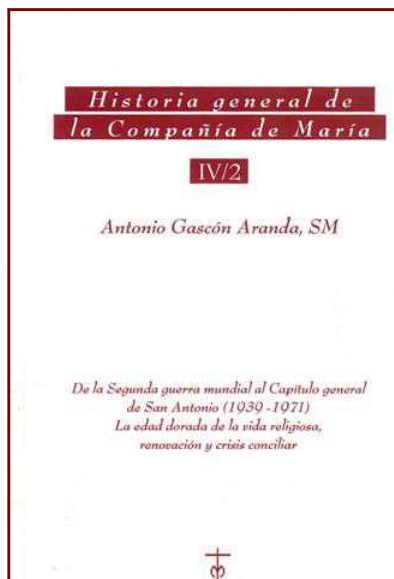


マリアニストの聖遺物を納めた陳列ケース



新学期の始めから、福者シャミナード師、福者メール・アデル・マリー・デ・ラ・コンセプション、マリアニスト殉教者たち、そしてドミンゴ・ラザロ神父の聖遺物が総本部の「柱の聖母聖堂」に展示されています。これらの遺品は、マリアニストの聖性の数々の姿を表しているパネルに納められています。パネルは教会の後部壁の目の高さに備えられています。こうしてVia Latina 22を訪れるすべての修道者、および多くの訪問者はこれらの遺品に敬意を払いことができます。

マリア会通史の新刊

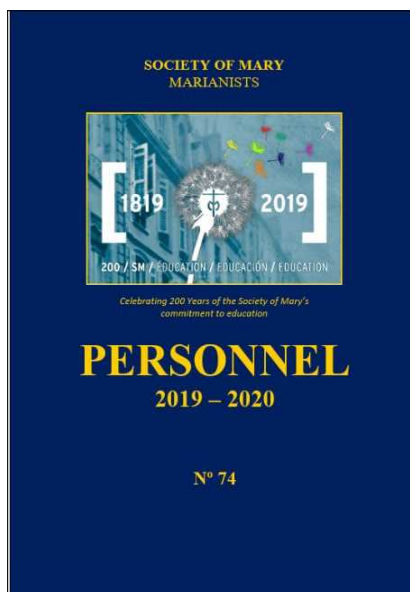


2019年10月、スペイン管区のマリアニスト出版サービスはマリア会通史のIV巻パート2を発行しました。このマリアニスト歴史のシリーズの著者はAntonio Gascon師です。この新巻のサブタイトルは、“第二次世界大戦からサンアントニオ総会まで”（1939–1971）となっており、内容は次の通りです：修道生活の最盛期、刷新と第二バチカン公会議後の危機、戦争によって荒廃したマリア会管区：フランス、ベルギー、オーストリア・ドイツ・ハンガリー、イタリア、日本、スイス、そして、アフリカへの宣教拡大。

この新巻は第IVのパート2であり、あの時代の教会的、市民社会的、そしてマリアニストの世界の歴史的背景を取り扱っています。そして、この歴史が北アメリカ、スペインそして南アメリカの管区にどう影響を及ぼしたかを提示しています。

IV巻パート2は第二次世界大戦で荒廃した地方や国々におけるマリア会修道者の生活を示しています。それはまた、マリア会の歴史の新たな局面に当てられた最終章—アフリカへの宣教拡大—を付け加えています。この新巻は735ページからなり、イラストとマリア会の文献が載せられています。

新国際名簿 2019–2020



ローマ・マリア会総本部の国際名簿2019–2020年版が最近発送されました。いつものように、コピー部数が行政単位の本部に直送され行政単位内に配布されます。

正確でタイムリーな情報を提供してくださった全マリアニスト行政単位に感謝します。

最近の総本部通信

- 10月2日：SM-3部門 #153、「アブラムを外に連れ出された」(Gn 15, 5)
－ 真の預言者的な修道生活 (35GC, #36) － 霊生局長Pablo Rambaud師
から全マリア会員に3か国語で送付

総本部日程

- 10月31日－11月3日：総長評議員会全員がスペイン、エル・エスコリアルでの CEM
(ヨーロッパマリアニスト会議) に出席
- 11月13日－25日：総長評議員会全員がイタリア地区訪問
- 11月27日－29日：総長André-Joseph Fétis師がローマでのUSG(総長連合会)の
会議に出席

メールアドレス変更

- Luis Casalá師 (AR) : luiscasala@colegiomarianista.edu.ar
- Kodjo Frédéric Bini士 (TO) : binikodjo@gmail.com